

大分方言文献目録（1）

二階堂， 整
九州大学大学院博士課程

<https://doi.org/10.15017/15490>

出版情報：文献探究. 23, pp.17-21, 1989-03-20. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

大分県方言文献目録（1）

二階堂 整

これは大分県の方言に関する文献目録である。大分の方言に関係があると思われる文献で1988年12月までに発行されたものを収録した。大分とは、現在の行政区画での大分県をさすものとしたが、他地域に調査が及ぶものでも大分の方言に関係すると思われるものは記載した。新聞や週刊誌に発表された資料も収録に努めた。

本目録を作成するにあたって、参照させていただいた諸文献目録を冒頭に掲げておくが、この他にも多くの方々の御教示をたまわった。御厚意と御協力に深謝する次第である。

<文献の表記方法>

（1）表記の順序

通し番号・分類記号・著者名（あるいは編者名）・発行年（年号）・「論文・記事名」・『雑誌名（あるいは単行本名）』・巻・号・ページ・発行所（著名な雑誌については発行所を省略し、著名な雑誌でない発行所には所在地を付す。）K（Kの有無は大分県立大分図書館所蔵の有無を意味する。）・<具体的調査地域・内容の要約・目録作成者の補足説明>

（2）巻・号・ページ数の書き方の例

「3,1-3」は3巻（あるいは3号）の1ページから3ページまでの記事をしめす。「3(2)4-5」は3巻・2号の4ページから5ページまでの記事を示す。1ページだけの記事については「3(2)6頁」として頁の字を加えた。

（3）分類記号について

論文・記事の内容によって以下のように分類した。ただし、直接、確認できたものだけである。

a 概説 b 総合調査 c 音韻 d アクセント e 文法 f 語彙 g 談話資料 h 国語教育 i 俗語・昔話 j 随筆等

（4）地図について

地図には文献の通し番号で調査地域を表記した。ただし、直接、確認できたものだけである。

（5）文献の範囲・配列と、記録の不完全なもの扱い

文献は調査記録に限らず、公文書・史料・古文書等も含め、年代順に配列した。年代不明の文献、方言を反映した文学作品等は、それぞれ別項をたて、末尾にまとめた。疑問のある点については？の印をつけた。確認できなかった資料については、その出所を次に示す参照文献目録の番号にしたがって、<目録03>のように末尾にしめた。

<参照文献目録>

- 01 橋 正一 1930(S5)~1934(S9) 『方言と土俗』1(1)~4(9)
- 02 日本方言学会 1931(S6)~1938(S13) 『方言』1(1)~8(2) 春陽堂
- 03 東條 操 1944(S19) 「方言と方言論文目録」(M1~S17) 『方言と方言学』（増訂版）春陽堂
- 04 国立国語研究所 1954(S29)、1955(S30)、1957(S32)~1988(S63) 「方言・民俗」（単行本・雑誌目録）『国語年鑑』秀英出版

- 05 日本方言研究会 1964(S39)『方言文献目録』(S18~S38)『日本の方言区画』東京堂
 06 九州方言学会 1969(S44)『九州方言の基礎的研究』風間書房
 07 大田 栄太郎 1970(S45)『方言調査・研究資料目録』
 08 日本方言研究会 1978(S53)『方言文献目録』(S39~S51)『日本方言の語彙』三省堂
 09 日本民俗学会 1980(S55)『日本民俗学文献総目録』(芸能・口承文芸・民俗誌)弘文堂
 10 松田 正義 1980(S55)『大分県方言の概観』OBS大分放送局編『大分県百科事典』
 11 大分県立大分図書館 1982(S57)『大分県立大分図書館蔵書目録』第一巻 郷土資料(S57)及び郷土資料カード(1~S57)
 12 柴田 武・真田 真治 1983(S58)『言語学研究の動向——方言学——』(文献目録 S52~S55 非売品)

<方言文献目録>

- 001 ロドリゲス 1604(暦9)~1608(暦13)『日本大文典』<豊後方言の記録あり、1955(S30)土井忠生訳『日本大文典』三省堂>
 002 安原 貞屋? 軼稿『片言』<一部豊後語彙あり、1931(S6)正宗敦夫編『かたこと』日本古典全集刊行会、1938(S13)『片言』(国語学大系19)厚生閣、1965(S40)福井久蔵編『かたこと』『国語学大系 方言1』、1976(S51)白木進『かたこと』笠間書院>
 003 鄭 瞬功 1565(禄8)頃『日本一鑑』
 004 著者不明 1694(元禄8)頃 俳書『其便』<「聞分けられぬ豊後もの云ひ」とあり>
 005 露川・燕説編? 1717(享和2)『西国曲』<一部豊後・豊前の方言 1928(S3)普及版俳書大系7 焦門俳諧続集上巻>
 006 越谷 吾山 1775(安永8)『物類称呼』<豊前16語・豊後9語 1933(S8)吉沢 義則『校本物類称呼 諸国方言索引』立命館出版部>
 007 谷川 士清 1776(安永6)~1862(文久2)『倭訓栞』<豊前15語・豊後22語 豊後歌2 1898(M31)井上頼圀他『増補 語林倭訓栞』岐阜成美堂>
 008 古河 古松軒 1783(天明3)『西遊雜記』<「豊前弁はまあまあだが、豊後弁はひどく劣る」とある。>
 009 棹歌亭 真楫 1810(文久7)『下愚方言 鄙通辞』(豊前・豊後の語彙・語法。吉町義雄「下愚方言 鄙通辞」に西国語を求めて)『方言』3(6)19~32)
 010 著者不明 文政年間『筑紫方言』<一部豊後方言語彙、1938(S13)福井久蔵編『筑紫方言』『国語学大系 方言2』厚生閣>
 011 森 春樹 1832(天保3)?『俚言鈔』<日田方言 1977(S52)~1978(S53)田中晃 活字本「俚言鈔」『日田文化』20~21>
 012 平田 胤富 1834(天保5)?『望春隨筆』<一部豊前・豊後方言語彙あり。翻刻『福岡県史資料』7>
 013 石井 祐斎「諸国方言演説会 第二回 豊後国(M13・10・4)」『東京人類学雑誌』436<目録07>
 014 日田郡教育委員会編 1901(M34)『方言取調書(日田の方言)』
 015 土肥 健之助 1902(M32・12)『大分方言類集』甲斐書店 K <1975(S50)『全国

(19)

方言資料集成』国書刊行会再刊 語彙数3000、五十音順品詞、時に用例・使用郡名注記、付録に「国語教育上の問題点」をおき、助詞の発音転化についてふれる。>

- 016 国語調査委員会編 1905(M38)『音韻調査報告書・音韻分布図』<大分師範学校が、全県下一般について調査>
- 017 国語調査委員会編 1906(M39)『口語法調査報告書上・下 口語法分布図』<大分師範学校が、全県下一般について調査>
- 018 胡麻鶴 弘毅 駱耕~疋棚 『豊後方言集』K<速見郡山香地方>
- 019 三佐村役場 1914(T3)「方言・訛言」『三佐村郷土誌』77~82 K <1981(S56)橋本辰男翻刻出版>
- 020 G G生 1919(T8)「豊後竹田地方の方言」『民族と歴史』4(3)
- 021 鶴谷 外史 1921(T10)「方言・訛言」『姫島史』137~146(自刊 謄写版)K
- 022 著者不明 1923(T12)『言葉の改善』中津高等女学校<目録07>
- 023 著者不明 疋棚? 『吳崎方言集』<豊後高田市吳崎小学校蔵><目録10>
- 024 利行 学而 1927(S2)?「方言(大分県東国東郡)」『郷土報告』<目録05>
- 025 堀江 与一 1931(S6)・5「大分県の方言」『放送講演集 九州方言講座』70~79 NHK九州支部(熊本)K
- 026 岡村 利一 1931(S6)「豊前方言音韻変化の一考察」『国語教育』7月号?<目録03>
- 027 岡村 利一 1931(S6)「豊前方言の歴史的考察と特殊な語句語法の研究」『国語教育』9月号?<目録01>
- 028 田口 正治(漢文科2年)1932(S7)・1「宇佐郡に於ける助詞接続上の音韻変化」<簡約方言手帳による記入><国研>
- 029 大分女子師範学校 1932(S7)「方言」『郷土教育の理論と実践』672~689 <国研の「大分方言資料雑集」内にあり>
- 030f 市場 直次郎 1932(S7)「大分県に於ける蛸斗方言」『郷土趣味雑話』121~192 金洋堂書店(大分市)K <オタマジヤクシの方言 大分市、別府市、中津市、西国東郡、東国東郡、速見郡、大分郡、北海部郡、南海部郡、大野郡、宇佐市>
- 031 永田 吉太郎 1932(S7)?「方言読本5 大分県直入郡竹田町」『むさしの』2<目録02>
- 032b 堀江 与一・原田 兵太郎 1933(S8)・11『大分県方言考』大分師範学校国漢部会 K<言語教育・音韻・品詞・文章論に区分、品詞は五十音順語彙、文章編に浄瑠璃・会話・民話をふくむ。>
- 033 吉町 義雄 1933(S8)・12「九州の方言」『国語科学講座』12 明治書院
- 034 岡村 利一 1933(S8)『豊前方言』(自刊)<目録01>
- 035ef 市場 直次郎・近藤 佶・波多野 宗喜 1933(S8)~1936(S11)『豊後方言集』1~3 大分県第一高女国文会 K<県立図書館は1,3のみ所蔵、2は1934(S9)発行、第一、二集は大分県第一高女生徒の採集による方言語彙集、地域は大分市、別府市、西国東郡、東国東郡、速見郡、大分郡、南海部郡、直入郡、第三集は語法編、一部語彙の補遺、簡約方言手帳による部門別表記 使用市郡名注記 文例方言訳>
- 036 三ヶ尻 浩 1933(S8)「南豊後から北日向へ——旅と方言——」『旅と伝説』8(7)2 3~35<北南海部郡(津留・穂門)>

- 037 著者不明 1933(S8)? 「方言読本(6)大分県別府市」『土の香』
- 038 早川 孝太郎 1933(S8)? 「豊後路にて — リキツエ、アマツツミ等 — 」『旅と伝説』6(10)
- 039 三ヶ尻 浩 1934(S9)・6 「大分県方言語彙の考察」『方言』4(6)14~25
- 039 三ヶ尻 浩 1934(S9)・6~9 「大分県の方言」『大分県教育』
- 040 吉町 義雄 1934(S9)・7 「九州郷土文学について」『国語研究』<豊後浄瑠璃総論あり>
- 041 堀江 与一 1934(S9)・7 「豊後浄瑠璃評釈」『国語研究』
- 042 三ヶ尻 浩 1934(S9)・8 「方言・語り物『豊後浄瑠璃』の詞」『ドルメン』3(9)9~12
- 043 三ヶ尻 浩 1934(S9)・11 「大分県方言文例並びに『吉右衛門話』」1,2 『方言』4(11)26~31
- 044 加藤 虎一 1934(S9) 「方言訛語」『戸次郷土誌』182頁
- 045 吉町 義雄 1934(S9)、1935(S10) 「『西国ばい』の過去帳」『九州文化』1(2)~(4)、2(1)
- 046b 三ヶ尻 浩 1934(S9) 『大分県方言の研究』(謄写版)K <1937(S12)・4 明文堂より増補版出版。大分県方言の概観、五十音順方言語彙(アクセント注記)、語法、さらに付録として児童語、吉右衛門話、豊後浄瑠璃>
- 047 三ヶ尻 浩 1934(S9) 『豊後方言と滑稽 — 近畿方言会発表 — 』(謄写版)
- 048f 倉田 一郎 1936(S11) 「九州漁語抄(豊後網代漁村語彙)」『方言』6(10)1~23<南海部郡日代村網代>
- 049d 平山 輝男 1937(S12) 「九州東部のアクセント境界線」『方言』7(9)1~18
- 050 岡村 利一 1937(S12) 「豊前方言の考察」『音声学協会会報』49
- 051 日田郡教育会編 1939(S14) 「日田言葉」『郷土読本』上 K
- 052f 山本 晴男 1940(S15) 「方言について」『ゆきさき』大分県立杵築高等女学校校友会<国研の「大分方言資料雑集」内にあり>
- 053f 佐藤 猛夫 1940(S15)・3 「豊後大分方言」『ゆきさき』13 大分県立杵築高等女学校校友会<国研の「大分方言資料雑集」内にあり>
- 054 土居 重俊 1941(S16)・9 「中津のアクセント」『国語研究』9(9)
- 055d 平山 輝男 1941(S16) 「九州東部のアクセントとその系統」(上・下)『国学院雑誌』47(1)と(2)
- 056 井之口 章次 1947(S22)・8 「ときおり雑記 — 三重町 — 」『民間伝承』11(6)と(7)
- 057 里木 健二 1945(S22) 「日田方言の研究」『鳥陽』日田中学校校友会
- 058 佐藤 悌 1950(S25)・7 「大分の地名方言 — 速見郡日出町付近 — 」『民間伝承』14(7)27頁
- 059 平山 輝男 1951(S26) 「九州東部の音調」『九州方言音調の研究』165~216 学界之指針社<第七回 九州東部音調分布図>
- 060 村上 庄一 1951(S26)~1952(S27) 「豊前方言について」1~4 『美夜古文化』2~4
- 061 日田市役所編 1952(S27) 「日田ことば」『日田市十年史』K
- 062 松田 正義 1953(S28)・8 「方言の位置づけ」『あなたのことば わたしのことば』

(21)

NHK大分放送局（謄写版）＜大分放送局学校放送教師用テキスト＞

- 063 渡部 之夫 1953(S28)・8 『大分郡今市村方言集』（謄写版）
- 064 井之口 章次 1953(S28)「大分県三重町付近の見聞」『国学院雑誌』54
- 065 著者不明 1953(S28)? 『大分県形容詞イ・カ語尾分布相並びにバイ・タイ助詞』
＜言語地図 1953(S28) 調査 調査者 糸井寛一 作図者 工藤 雄幸 1954(S29)
吉町義雄 複写＞
- 066 著者不明 1954(S29)・2? 『綴方風土記 第八卷 九州琉球篇』平凡社＜目録04＞
- 067 松田 正義 1954(S29)・7「複雑な大分方言 — 九州方言のあれこれ — 」『放送文化』7 日本放送協会
- 068 松田 正義 1954(S29) 「国語教育と大分県方言」『教室』9 大分大学学芸学部
- 069 松田 正義 1954(S29)7・11 「大分方言」『毎日新聞』
- 070 姫島村漁業協同組合 1954(S29) 『資料 第四集 姫島近海魚介類方言集』1~14
- 071 切石 文士 1954(S29)「イ助詞の分布」切石文士編『ちよるけん』1~6＜大分市鶴崎＞
- 072 糸井 寛一 1954(S29)「イ助詞憶説」切石文士編『ちよるけん』7~16
- 073 松田 正義・猪股 重太郎・佐々木 均太郎 1955(S30)・2 「大分県の方言を語る」『教育広報』24、6~11 大分県広報協会
- 074 松田 正義 1955(S30)・10 「方言をどう扱うか」『国語教育講座』3 明治図書
- 075 大分舞鶴高校社会研究部地名研究グループ 1955(S30)・12 『地名研究』2（謄写版）
- 076 水口 清子 1955(S30)・12 「ことば風土記 — 姫島のことば — 」『言語生活』5
1、75~76
- 077 松田 正義 1955(S30)「センコゲツ」『豊州雑筆』11
- 078 糸井 寛一 1955(S30)「Himesima:toti to kotoba」『Romazi Sekai』10、11、12
日本ローマ字学会
- 079aj 松田 正義 1955(S30)「方言の旅 大分」『NHK 国語講座』1(2)（8・9月号）
33~35＜ラジオ放送用テキスト NHK国語講座 第四卷 宝文館より再刊 大分県
方言の概観・随筆＞
- 080 日田郡前津江村大野小学校 1955(S30)以前 「品詞にあらわれた日田方言」14頁（
謄写版）
- 081 糸井 寛一 1956(S31)・3「方言のなまりはどのようにして直すか — 大分県の場合
— 」『Romazi sekai』490
- 082 松田 正義 1956(S31)・9 「大分方言」『NHK 国語講座』265~277 宝文館
＜大分郡庄内、耶馬溪（山国村槻木地区）、日田郡中津江村、佐伯市大入島荒網代地
区、豊後浄瑠璃、各地の会話例と解説＞
- 083 森 史雄 1956(S31)・9 「方言の旅 — 共通語教育の場を求めて — 」（大分市
荷揚小学校 会話対話の語法指導）『NHK 国語講座』2(5)（10・11月号）28~29＜
ラジオ放送用テキスト NHK国語講座 第四卷 宝文館より再刊＞

＜続く＞

（九州大学大学院博士課程）